

art 25 周年企年展覧会「コレクション・ストーリー -諸橋近代美術館のあゆみ-」

2024 年 9 月 21 日 (土) ~ 11 月 10 日 (日) 9:30~17:00 (最終入館 16:30)

一般 1,300 円 高校・大学生 500 円 中学生以下無料 電話: 0241-37-1088

本展覧会では諸橋近代美術館開館 25 周年を記念して、コレクションの 4 本柱であるサルバドール・ダリの作品、ルノワールやシスレー、シャガールなどの西洋近代美術作品、イギリスの現代アーティスト PJ クルックの作品、フィリップ・ハルスマンの写真作品について、コレクションに込められた創業者 諸橋廷蔵の想いや、収蔵に至った経緯を振り返り、諸橋近代美術館コレクション形成の歩みを見つめ直していきます。廷蔵は福島県いわき市出身の実業家でゼビオホールディングス株式会社(スポーツ用品小売業)の創立者です。本業の傍ら 1990 年代から独学で知識を身につけて作品蒐集^{しゅうしゅう}を行い、コレクションの礎を築きました。美術館設立の準備にも自ら取り組み、1999 年 6 月 3 日に諸橋近代美術館が開館します。廷蔵は美術館の開館 4 年目に他界しますが、その後も作品蒐集は今日まで継続して行われています。本展覧会では美術館のあゆみの一環として、美術館やコレクションに纏わる裏話や、これまでに行われた修復や調査についてもご紹介しています。

本展覧会は 4 章構成となっており、それぞれの章を「Collection Story」と題しています。Collection Story 1 では、美術館設立の足がかりとなったダリの彫刻や版画作品などを展示しています。廷蔵は芸術への関心が強く、ヨーロッパを訪れた際はよく美術館に足を運びました。特にスペイン・フィゲラスのダリ劇場美術館の展示はダリ作品への興味を一層深めるきっかけとなりました。1991 年に当時パリ・ストラットン財団所有のダリの彫刻 37 点、水彩画 1 点、版画 9 組、版画書籍 1 巻を一括購入する機会を得られたことが転機となり、廷蔵は密かに抱いていた美術館設立の夢への大きな一歩を踏み出します。

Collection Story 2 では、当館で所蔵している西洋近代作品を展示しています。廷蔵は「広く多くの方に西洋近代美術の秀作の数々を鑑賞し、感動していただきたい」という自身の想いや、周囲からの助言もあり、19 世紀から 20 世紀に活躍した画家の作品を幅広く蒐集しました。廷蔵は作品の蒐集にあたり、オークションを通して作品を選定し図版や書籍で独学を重ねつつ、必ず自分の目で見て、自身の審美眼を信じて蒐集を続けました。

Collection Story 3 では、PJ クルックの作品を展示しています。クルックは額縁にまで画面を拡張させて描く手法や変形カンヴァスを活用する様式を特色とし、イギリ



ピエール=オーギュスト・ルノワール
《モーリス・ドニ夫人》1904
油彩/カンヴァス



PJ クルック
《フード・オン・ザ・ストリート》1995
アクリル/カンヴァス、木製フレーム
©・PJ Crook 2024

スのプログレッシブ・ロックバンド、キング・クリムゾンの CD ジャケットを度々手掛けるなど、現在に至るまで精力的に制作活動を続けています。1995 年、廷蔵はパリのギャラリーで開催されていたクルックの個展に偶然立ち寄り、その場に展示されていた作品 20 点全てを購入しました。この出来事は、当館にとって現在まで続くクルックとの交友のきっかけとなりました。その後もクルック本人からの寄贈や当館での購入を経て、コレクション数を拡充しています。

Collection Story 4 では、ハルスマンの写真作品の中の数点を展示しています。ハルスマンは 1930 年代から写真家として活動し、時代を彩る人物のポートレートを数多く撮影しました。一方で、ダリと 37 年間に渡る友好を築き、共同制作者として様々な写真表現の可能性を切り拓いた作品を残しています。当館では、2020 年にニューヨークのフィリップ・ハルスマン・アーカイブの協力を得て、ダリとハルスマンの協働と友好に焦点を当てた「ダリとハルスマン」展を開催しました。同展をきっかけに生まれたご縁からハルスマンの作品 60 点を購入し、美術館のコレクションを更に充実させました。

今日に至るまで様々な偶然の出会いが重なり、当館は開館 25 周年を迎えることができました。51 日間という短い会期ではありますが、ご来館者の皆様に本展覧会を通して作品との偶然の出会いをお楽しみいただき、お気に入りの作品を見つけたり、アートをより身近に感じられるきっかけとなれば幸いです。

諸橋近代美術館 学芸員 石澤 夏帆

私のフランス語日記 Mon journal en français

Au cours de conversation en français organisé par l'Association Japon-France de Fukushima, nous discutons en français sur un document donné par le professeur. Ce que l'on a traité l'autre jour était un article de deux experts concernant la condition du français à present. L'un dit que « Ce que d'aucuns qualifient de décadance n'est en réalité que le processus normal d'évolution d'une langue », et l'autre prétend que « Le français s'est construit avec le renfort d'autres langue, mais jamais comme aujourd'hui jusqu'à risquer de devenir une langue morte ». Ça signifie principalement l'influence de l'invasion de l'anglais. C'est vrais que tous les pays qui ont l'autre langue maternelle, ça ont un sentiment de crise, mais j'imagine que celui de la France est en particulier fort.

Les raisons de changement de la langue sont variés. Par exemple, l'influence des autres langues, la différence de la manière d'utiliser de la langue entre des générations différents, l'apparition de la nouvelle conception, etc. Mais je pense que quant à le français ou l'espagnol, l'on ne peut pas mépriser l'influence de ses anciennes colonies en plus de ces sujets.

C'est le grand nombre de joueurs originaires de l'Afrique qui m'a impressionné à nouveau en regardant l'équipe française d'athlètes des JO de Paris. Presque tous les joueurs participant à la compétition par équipe de Judo, c'étaient originaires de l'Afrique. On dit que les francophones au monde entier comtent environs 300 millions, mais la plupart de celles sont des peuple africains, et la ville qui ont les plus locuteurs du français, ce n'est pas Paris, mais Kinshasa, la capital de la République Démocratique du Congo. Il semble qu'il y a une prévision que le nombre de francophones au monde entier atteindra 75 millions en 2050, mais le montant augmenté est presque celui en Afrique.

En outre, on dit qu'il se produit, en plus du français, des nouvelles langues mixtes du français et des langues africaines, pour que l'on ait la langue véhiculaire couramment utilisée par des beaucoup de tribus qui ont différent langues, en conservant l'identité de peuple local. Maintenant, je suis cours de maîtrise de l'allemand, mais je de temps en temps inscris un cours du français. L'année dernière j'ai suivi un cours où on lit un thèse concernant l'apparition des langues mixtes du français, l'anglais et des langues africaines. J'ai appris qu'il apparaît comme exemples de ces langues mixtes, le camfranglais du Cameroun ou le nouchi de Côte d'Ivoire.

De nos jours, ce n'est pas d'exagération que le français est la langue d'Afrique, et je ressentis le fait qu'il change chaque jour.

un élève du cours de conversation en français :

Chizuo Hayashi

福島日仏協会主催のフランス語会話教室では先生の配布する資料を基にして、受講生がフランス語で意見交換を行っている。先日用いた資料はフランス語の現在の状況に関する二人の有識者の意見に関するものだった。一人は、「ある人々が衰退だと言うものは実際には言語の通常の発展経過に過ぎない」と言い、もう一人は、「フランス語は他の言語の力を借りて構築されてきたが、現在のような状況はこれまでなく、フランス語は死語となる危険がある」と主張する。これは主に英語による影響を意識したものだ。英語の拡大に対する危機感他の言語を母語とするどの国でもあるのだろうが、フランスでは特にそれが強いのだろう。

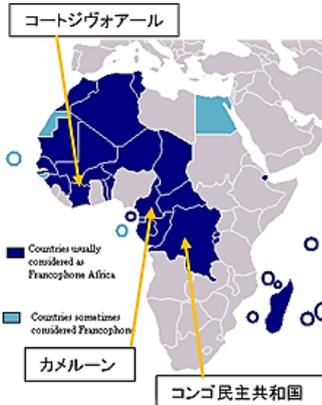
言語が変化する理由としては様々なものがある。他国の言語による影響、世代間の言葉遣いの違い、新たな概念の誕生などがある。しかし、フランス語やスペイン語の場合にはこれに加えてかつての自分たちの植民地からの影響を無視することはできないように思う。

パリ・オリンピックのフランス選手団を見ていて改めて感じるのはアフリカ系フランス人選手の多さである。柔道団体戦出場選手はほぼ全員アフリカ系の選手であった。



現在の全世界のフランス語話者人口は約3億人ということであるが、その多くはアフリカの人々であり、世界で最もフランス語話者の多い都市はパリではなく、コンゴ民主共和国の首都キンシャサなのだという。2050年には世界のフランス語話者は7億5千万人になるという予想もあるようだが、増加分はほぼすべてアフリカでのものである。

【アフリカにおけるフランス語圏】



しかもアフリカでは、フランス語に加えて、現地の人々のアイデンティティを守りつつ、別言語の多くの部族間で通用する言葉を持つために、現地の言葉とフランス語の混合語が生まれてきているらしい。私は現在、大学院でドイツ語を専攻しているが、フランス語の授業も取ることがある。昨年、アフリカにおけるフランス語と英語や現地語の混合語の発生に関する論文を読む授業を取った。こうした混合語の例として、カメルーンのカムフラングレ語やコートジヴォールのヌシ語といった言語が生まれてきているのだという。

今やフランス語はアフリカの言葉といっても過言ではなく、そしてそれは日々変化しているのだということを実感する。

フランス語会話教室受講生 林 千鶴雄

歴史の曲がり角で

8月15日「今日は何の記念日か知っていますか」例年この日に行われる若者相手の街録である。4人中4人も「知らない」と答え、中の1人は「知らなくても別に恥ずかしいとは思わない」と言った。質問者も「例年こんな風で今では腹も立たなくなった」と冷めていた。

この日は昭和一桁以前に生まれた我々にとっては屈辱と不安に満ちた忘れ難い日である。終戦といえば聞こえはいいが、実情は日本が完全に戦争に負けたことを認め、赦しを請うて無条件降伏を受け入れた日なのだ。大人達は国が喪失して植民地になるかもしれぬ不安に打ちのめされた日でもある。

あの日、焼けるような真夏の日盛りに大勢の大人たちが集まって、ラジオの聞き取り難い音声に聞き入り、首項垂れて泣く姿をみた。そのあと子供の眼にも不可解なことが次々に起こった。鬼畜米英は正義の軍人になり、教科書は墨で黒々と消され、大人達は愛国精神に代わってアメリカの豊かさを讃え、民主主義に賛同した。テレビの普及によって刷り込まれた敗戦の象徴は、厚木飛行場に降り立った進駐軍総司令官長ダグラス・マッカーサーの雄姿である。愛用のコーン・パイプを啜って飛行機のタラップの途中で四方を見渡すあのポーズ。それから、敗戦国の象徴となった路地裏を走る米軍のジープにぶら下がるように纏りついて「give me chocolate」と叫ぶ姿。人々は空腹に追われ、活気づいたヤミ市の隅の傷痍軍人の物乞いや孤児を見ないようにした。

日本に戦争終結を通告したポツダム宣言は7月27日に届いた。内容は無条件降伏。まだ原爆投下の前だったが、日本の主要都市の殆どが爆撃されていたが、それに対抗する手段は全くなかった。それにも拘らず政府は無策で、マスコミも惰性的に国民を鼓舞し続けていた。軍の上層部はまだ300万の軍人を擁して、3月10日の東京大空襲、6月23日の沖縄全滅の悲報を知っていたにも拘らず本土決戦、1億総玉砕の覚悟を国民に強いていた。そういう状況下での「無条件降伏」受諾である。天皇を中心とした受諾派は軍部やマスコミを出し抜いて直接天皇自身が国民に終戦の勅諭を告げるという計画を

立てた。NHKの放送室を巡って軍部と受諾派との間で録音盤の激しい争奪戦があり、綱渡りのような幸運に恵まれて、8月15日正午の玉音放送が実現した。この話はドラマ化され放映もされたからよく知られている。

先日BS1の「昭和の選択」という番組で、ポツダム宣言受諾から8月30日進駐軍到着までの数日間の受諾派の隠密行動や工作が明らかになった。受託を受けた米英側は直ちに受諾確認のための使節団派遣を要請した。受諾派の使節団は外交官岡崎勝男、陸軍参謀次長川辺虎四郎中将(もう1人の名は聞き落とした)3名とし軍部の不穏な動きの中、敵の本部へ密航することになった。偽装のため白地に緑十字を描いた零戦闘機を囷を加えた3機で離陸厚木→木更津→沖縄の伊江島で米軍機に転乗マニラに到着、帰国は翌21日調布飛行場に。また、米軍到着の前夜、厚木飛行場が破壊され、修復は夜明けまで掛った。受諾派が最も入手したかった情報は、占領軍の施政方針である。施政方針次第によって将来の日本の国が全く違った形になるからだ。29日極秘情報が入った。1 日本国民を直接統治する。2 英語を公用語とし司法権を有する。3 軍票の使用を可とする。この方針を「明日」8月30日に公示するので、30万枚のプリントを用意したという情報だった。これは日本の植民地化に外ならない。絶対に阻止せねばならぬ。彼らはその夜の内に公示の中止に奔走する。マックには連絡が取れずその部下のマーシャルも駄目で、ホテル中を探し回って誤って別人に事情を話してしまった。その人の連絡でやっと公示中止に漕ぎつけたという。その後、1は間接統治に2の条項は撤回、3の軍票の使用は廃止と変更され、日本国内の混乱は避けられたし日米双方に禍根を残さずに済んだ。もし植民地政策が行われていたら今日の独立国日本は存在しなかったであろう。岡崎・川辺氏らの獅子奮迅の働きのお陰で今の日本の繁栄があるのである。

顧みると、昭和一桁組の我々は軍国侵略主義から民主世界共存主義へと大転換した歴史の壮絶なターニングポイントを生きてきたのだと痛感する。

鈴木 淑子 (会員)

2024年度秋季 実用フランス語技能検定試験

公益財団法人フランス語教育振興協会

■実施級 準1級、2級、準2級、3級、4級、5級

■実施日程 1次試験(準1・2・準2・3・4・5級)

2024年11月17日(日)

2次試験(準1級・2級・準2級の1次試験合格者対象)

2025年1月26日(日)

■出願締切 願書郵送: 10月16日(水)消印有効
インターネット: 10月23日(水)

■福島会場 福島学院大学 福島駅前キャンパス

■お問い合わせ 仏検受付センター TEL 03-5778-4073 FAX 03-3486-1075



幕間（まくあい）

幕間とは演劇で、一幕が終了、次の一幕が始まるまでの時間である。その幕と幕の間に食べるのが「幕の内弁当」であるらしい。昔は劇場には必ず立派な緞帳幕があったが、最近のコンサートホールには幕は無いところが多い。最近ではプロジェクション・マッピングなどにより、舞台設営ができるようになり幕を開閉する必要が少なくなったせいかもしれない。

2009年パリのSalle Pleyelでラジオ・フランス交響楽団のコンサートへ行った時、休憩時間になるとお客さんが一斉に席を立ち、会場から出る。“あれ、これで終演なのか？”と一瞬思うほどである。殆どの観客が幕間に座席を離れ、ロビーに向かうのである。これは日本とは大分違うと思った。かつてはパリのオペラ座（オペラ・ガルニエ）でオペラ公演が行われたが、30年位前にオペラ座・バステューユができて、ここで主にオペラ公演が行われている。そのバステューユ・オペラ座へ「トスカ」を観に行ったら。開演前の注意事項の放送がフランス語、英語、ドイツ語に次いで日本語であったのには驚いた。T-shirtにジーパン姿の観客もいるのにはびっくりした。休憩時間にロビーのベンチに座り、持参のタッパーからリンゴやオレンジをかじっている老夫婦がいた。彼らにとってはさしずめ「三波春夫ショー」でも観に来た気分なのであろう。しかし2024年にバステューユ・オペラ座へ行った時には残念ながら日本語の案内は無かった。

2017年オランダ・アムステルダムでのコンサートへ行った時は幕間のドリンクがタダであった。これまで行ったコンサート会場で飲み物がタダなの



（パリ・バステューユ・オペラ「ドン・キホット」のフィナーレ）

はここだけである。当然入場料に入っているのだろうけど、「ただ」というインパクトは強い。2019年ミュンヘンにあるバイエルン州立歌劇場でのオペラ「愛の妙薬」を観に行ったら。ここでは幕間の間は観客が全員強制的にホール外に出され、入口に鍵をかけるのである。この理由はわからないが、初めての経験であった。このオペラではテノールのアリアの決定版として知られているアリア「人知れぬ涙」を、ネモリーノが天井からぶら下がったロープをよじ登り、唄うのである。テノールも大変な仕事だと思った。

コンサートも国により、場所により、いろいろ違いがあるのが面白い。

土屋 敦雄（会員）



暑い日のおすすめ料理

残暑厳しい日々が続いています。

さっぱりとした中華風のドレッシングで食欲を回復しましょう。玉ねぎ、きゅうり、パプリカ、レタスなどお好みの野菜を冷水に浸し、パリッとさせます。

鍋に生姜、長ネギの葉、鶏肉のもも肉を入れます。

煮立ったら、蓋をして、冷めるまで置きます。

酢、砂糖、醤油は同量でカップ2分の1ずつ、胡麻油を適量。

生姜、万能ネギ、赤唐辛子のみじん切りを混ぜ合わせます。

野菜に鶏肉を盛り付け、ドレッシングをかけます。

魚のムニエルなどにかけても美味しくいただけます。

遠藤 崇子（会員）